

(G) 足島（宮城県牡鹿郡女川町）予備調査

①調査地概況

足島は、女川港から南南東約 13km に位置する無人島である。北緯 38 度 23 分、東経 141 度 36 分に位置し、南北 800m、東西 500m、最高標高 47m、面積約 18ha である。1934（昭和 9）年に「陸前江ノ島ウミネコおよびウトウ繁殖地」として天然記念物に指定された。女川港から陸前江ノ島までは定期航路があり、江ノ島からは南東に約 1km の距離である（図 G-1）。

江ノ島の北西 600m にある平島と、江ノ島北方 2km にある笠貝島にも多数の海鳥が繁殖している。平島は 600m×150m、最高標高 31m、面積約 9ha で、笠貝島は 350m×200m、最高標高 44m、面積約 5ha である。

陸前江ノ島から各島への往復及び海上調査には漁船をチャーターする。

②調査日程（予備調査）

- 7 月 22 日 移動
- 7 月 23 日 平島上陸調査、足島上陸、夜間調査
- 7 月 24 日 笠貝島上陸調査（足島から往復）、足島夜間調査
- 7 月 25 日 足島調査、夜間調査
- 7 月 26 日 離島

③調査者

- 佐藤 文男 （山階鳥類研究所）
- 竹丸 勝郎 （山階鳥類研究所協力調査員）
- 小室 智幸 （山階鳥類研究所協力調査員）
- 山田 洋次郎（山階鳥類研究所協力調査員）
- 鈴木 一博 （山階鳥類研究所協力調査員）

④調査対象種

本島での繁殖記録があるウトウ、ウミネコ、オオミズナギドリ、コシジロウミツバメを対象とした。また、隣接する平島で多数のウミウの巣が発見されたため、本種も調査対象に加えた。

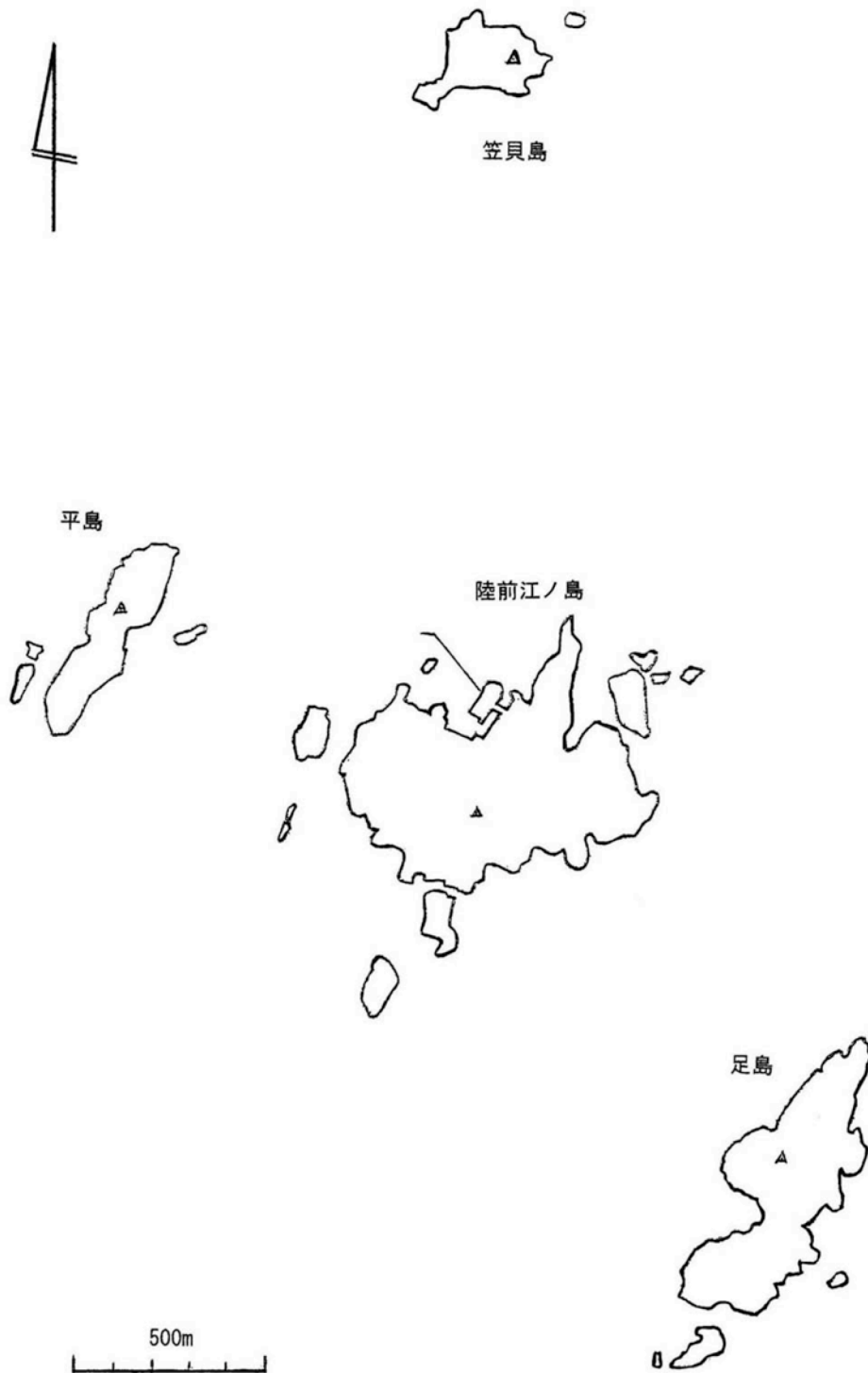


図 G-1 足島周辺図

⑤観察鳥種

足島、平島、笠貝島の3島でオオミズナギドリ、コシジロウミツバメ、ヒメクロウミツバメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、ウミウ、ゴイサギ、アマツバメ、ハクセキレイ、メジロの10種を観察した。これらのうち、オオミズナギドリ、ウミネコ、ウミウ、ウトウ、ゴイサギの繁殖を確認した。

⑥海鳥類の生息状況

○足島

島の面積の約半分を占める中央部の照葉樹林内にはオオミズナギドリが多数営巣しており、やや外周よりにウトウが営巣している。外周部には多数のウミネコが繁殖している。地元協力調査員により1972年からウトウの標識調査が行われているが、生息数及び繁殖数に関する調査は行われていない。夜間の標識調査によりコシジロウミツバメとヒメクロウミツバメが捕獲された。ドブネズミに捕食されたコシジロウミツバメの死体を確認した他、夜間にコシジロウミツバメの鳴き声を確認したが、日中の探索では巣は発見できなかったため、繁殖は未確認である。

○平島

中央部の照葉樹林内にウミウの巣が222巣確認された。わずかな面積に200巣が集中する場所は稀で、この他に200巣以上の営巣地は天売島と知床半島があるが、面積的にはどちらももっと広い。大部分の雛は既に巣立っていたが、一部の雛は林内の地上に見られた。島の外周部は多数のウミネコが繁殖していた。ウトウの巣穴は全域に見られたが数は少なかった。調査中に外来種であるイエウサギが2匹観察され、ウトウの巣穴数が少ない主な原因はウサギとの競合によると考えられた。

○笠貝島

頂上から南面は照葉樹林であり、オオミズナギドリの巣穴が多数見られた。森林の上層部にゴイサギの巣を約100巣確認した。外周部は多数のウミネコが繁殖しており、繁殖数はおよそ2,500巣と推定された。

⑦標識調査の実施

7月23日~25日の足島における夜間調査において、コシジロウミツバメ2羽とヒメクロウミツバメ1羽を捕獲標識した。ヒメクロウミツバメは宮城県初記録の種であった。

⑧調査マニュアル

調査は6月上旬から中旬にかけて実施し、以下の項目を調査・記録する。その際、

オオミズナギドリおよびウトウの巣穴はほぼ同じ直径で区別が困難なため、CCD カメラを用いて巣穴の主を確認し、両種の比率及び巣穴利用率を記録する。

- ・全生息鳥種の把握：踏査による観察、夜間調査
- ・海鳥類の生息数把握：目視カウント、推定繁殖数から逆算
- ・海鳥類の繁殖数把握：目視カウント、調査区設定カウント、船上カウント
- ・種毎の繁殖エリアの記録：島内踏査による目視・GPSにより地形図に記録
- ・繁殖密度の測定（恒久的固定コドラートの設定）
- ・生息を妨げる環境の評価（人の攪乱、捕食者、植生の破壊、漁業混獲他）
- ・画像記録（デジタルカメラ等による上陸アプローチ、キャンプサイト、各種ごとの繁殖地、種の拡大画像、ヒナ、卵などの記録）
- ・標識調査
- ・環境評価（植生などを加味した統括的評価）